

〔研究主題〕

自分の生活を振り返り、自主的に歯・口の健康づくりができる子どもの育成

本校は、全校児童数48名です。地域に愛され、地域に支えられている小規模校です。授業を通して研究を深めるとともに、養護教諭を中心に校内環境を整えました。



伊岐佐小マスコット

『いきいきデンタロー』

☆児童の気付きと活用を促す授業の工夫

例1 資料の効果的な提示



大きな歯の模型を使っの、養護教諭によるブラッシング指導。

例2 体験的な活動の位置付け



ケーキやするめ等、実際に食べさせることで気付きを促す指導。

例3 ゲストティーチャーの活用



専門的な見地からの話で知識を深めるため、栄養教諭等を活用。

☆校内の環境整備及びその他の様々な取組

例1 参加型掲示物



見るだけではなく、めくったり辿ったりする児童参加型の掲示物。

例2 児童作成の啓発資料



在校生や保護者向けに、6年児童がパンフレットを作成しての発表。

例3 学校歯科医による講話



保護者や地域の方を対象に、学校歯科医に講話を依頼しての啓発。

【成果 (○) と課題 (△)】

- 未処置歯があった児童も全員処置が終わり、健全歯のみを維持している割合も高くなっている。
- アンケート調査の結果、普段の食事での噛む回数が増えてきた。また、学校で学んだことを家で取り組んでいる児童が9割以上いる。
- △ ヘルスプロモーションの実現のため、児童が自ら気付き生かすことができるようなさらなる指導の工夫が必要。また、家庭への啓発を通して、学校と家庭が連携して取り組んでいくことが必要。